昭和39年11月10日第三種郵便物認可 昭和41年4月5日国鉄東局特別扱承認雑誌第2343号 昭和43年12月1日発行 第5巻第14号通巻第54号(毎月1回・1日発行)

月刊漫画

ガロ

No.54
1968
12月号

カムイ伝㊺ 白土三平
赤目プロ作品

鬼太郎夜話⑱ 水木しげる
水木プロ製作

（前回まで）

カムイ伝㊺

日置藩を襲った災害は、いわば起こるべくして起こったものである。それは、自然がおのずからもった一つの法則を人為的に破壊した結果にほかならない。江戸大火による木材景気にあてこんでの藩の領内森林の無謀な伐採がそれである。それによって、これまで天と地と水の相互関係のなかで微妙に保たれていた均衡が、いちどに崩れ去ったのである。もはや、貪欲に伐り払われた大地には、かつて深い森林であったときのような力はない。雨水はたちまち流水と化し、土砂とともに谷をかけ下る奔流となり、やがて、洪水にと膨れあがった。

各地に地滑りがあいついだ。花巻村のあの袋堰も決潰の危機に瀕した。一方に莫大な運上金の扱いあげと他方に百姓と非人の間の離反を狙った藩の採木事業の、それは二重三重の皺よせである。堰には、**正助**の血と汗が注がれている。**苔丸**や**ゴン**の協力がある。**竜之進**の、**一角**の、出稼ぎ人夫の、非人の、百姓の、そこには数えきれない夥しい人々の汗と血とが塗りこめられているのだ。ひとり漏水の穴を護って自らの生命を堤に埋めた**カムロ**をもわれわれは忘れることはできない。

一方に人々のこうした歩みがあるとき、一方にそれを引き戻し、引き裂こうとする権力がある。また、差別のゆえに貧しさのなかに突き落され、それゆえに権力への迎合、加担を余儀なくされる者の存在がある。ついに破れた堤の修復に非人らが向かおうとしたとき、それを阻んだのは、ほかならぬ彼ら非人らの頭**横目**とその輩下の**キギス**であった。横目は、非人と百姓の交りを禁じた法度と、藩の命令にしたがって、苔丸らの行動を封じようとする。苔丸らは、あくまでもおのれらの道をゆき、正助らを援けようとする。もっとも差別の厳しい最下層の同じ社会に閉じこめられている者同士が、いまはそれぞれ権力と反権力の側に分かれて対峙したのである。だが、この両者の間の緊張は、キギスが横目を殴撃するという意外な経過をもって消散した。すなわち、横目が**ナナ**を殺そうとしたとき、ナナをおのれの夢であり生涯であるものとしてキギスは彼女を護ったのである。ナナに寄せるキギスのこのひそかな心底は、ここにはじめてわれわれに知らされたのである。

ともあれ、これら非人の協力と竜之進ら木の間党の援けを得て、堤は大事なく修復されはしたが、こうした一見自然そのもののうちにそなわった猛威とも思える災害も、実は、人為的な、権力者の差別と搾取の結果からの皺よせであってみれば、殊に日々の生活そのものが自然との闘いでもある百姓にとって、闘いは不断に多重構造の形をもつものとして進められなければならないであろう。

その後、季節は順調にすすみ、一人の欠落もなく秋を終えた。若者組はこの間にさらに大きくなり、その活躍はめざましかった。新農具の開発、牛馬、肥料、種の一括購入。託児所、塾舎の増設。そして、独立した次男、三男、下人らの新田への移住が行われ、新らしい村もできつつあった。

やがて、冬が過ぎ、春の兆が山野に現われはじめるころ、かつて一度も経験したことのない出来事が花巻村をはじめ、日置領に起こりつつあったのである。それは、数しれぬ夥しい鼠の大群の襲来であった。

月刊漫画 ガロ 十二月号 目次

表紙絵・白土三平